Front Line フロント・ライン

閑話独言

「地方創生の道」を造る

国土交通省東北地方整備局
山形河川国道事務所所長
和田　賢哉氏

中央省庁再編に伴って国土交通省が誕生した翌年の2002（平成14）年に入省しました。運輸省、建設省、北海道開発庁、国土庁の４省庁が統合した総合的な組織であり、社会資本整備、災害対策、観光など業務は広範にわたっています。九州地方整備局、関東地方整備局、大臣官房、道路局などを経て今年４月に山形に赴任しました。

早稲田大学大学院理工学研究科で土木工学を学び、国土交通省に入ったのは父の影響です。父は設計コンサルタントとして、東南アジア、アフリカなどの国々で空港整備事業に携わってきました。スケールとやりがいの大きさに魅力を感じ、自分もこの世界で活躍したいと思うようになりました。父は70歳を越えた今でも第一線に立っています。

今年の11月４日に東北中央自動車道の福島ー米沢間が開通します。これにより米沢市から福島市までは約40分で行くことができるようになります。さらに、平成30年度には南陽高畠ー山形上山間が開通する予定です。輸送コストの縮減や、大雨や風雪による事前通行止めが解消されることによって定時性が向上し、経済波及効果、交流人口の拡大に向けた基盤が形成されることになります。

一方で、都市間の交通網が整備されると、地方の人口や資本が大都市に吸い寄せられるストロー現象を危惧する声があります。山形河川国道事務所では、東北中央自動車道の整備効果を最大限に活かして地域の活性化を図るため、平成26年度に山形県、福島県、沿線市町村及び経済・観光の関係者からなる協議会を立ち上げました。協議会では昨年度末に、東北中央自動車道の整備・開通に合わせた、「地域づくり」「産業振興」「アクセス道路」「観光振興」などの連携事業をプロジェクトマップとして取りまとめるなど、関係者が一体となって東北中央自動車道の利活用の促進により地域の活性化を図る「地方創生」に取り組んでいます。

高速道路の開通は良くも悪くも地域を変えるきっかけになります。高速道路を活用してどのような地域にするのか、地域の将来像について、行政だけでなく、民間企業や若い方々など、多くの関係者にも議論に参加してほしいと思っています。

山形県には、多くの人を魅了する果物や日本酒などの「食」や温泉、スキー、雪景色、山、祭りなどの多くの「観光資源」があります。それらの山形県の魅力を広く発信することで東北中央自動車道を通じて県外や海外から観光客を呼び込むとともに県外や首都圏に県産品を届けたいと考えています。そのため国土交通省の枠を超え商工・農業・観光などあらゆる分野の方々と連携して取り組んで行きたいと思います。

産業振興に欠かせない交通基盤の構築、県民生活の安全・安心の確保は私たちの使命です。東北中央自動車道の縦軸とともに、内陸と日本海側・太平洋側を結ぶ横軸も重要です。全力を挙げて取り組んでまいります。

今月の表紙　「山形テルサ」

ふるさと画家・上野啓太氏作。「わが町」をテーマに、イラストでまちおこし運動を行っている「やまがたマーチング委員会」（事務局・㈱大風印刷）提供。